

# information

福祉教育教材 〈プログラム例付き〉

## あなたのまちでやさしさをひろげるために ~思いやり・つながり・支えあう~

全社協・全国ボランティア・市民活動振興センターが設置する全国福祉教育推進委員会では、コロナ禍において福祉教育を推進するために、従来の体験型の福祉教育とは異なる教材として、「あなたのまちでやさしさをひろげるために~思いやり・つながり・支えあう~（福祉教育教材）」を作成しました。

本教材は、日本赤十字社「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう~負のスパイラルを断ち切るために~」を参考として作成したものです。コロナ禍においてコロナウイルスに感染した人への差別について問い、ハンセン病の歴史などへ焦点を当て、子どもたち自身が自分を見つめ、自分の周りにいる人を見つめ、自分の住んでいる地域や地域の方に目を向け「ふくし」について学び、自分たちで考える教材となっています。

教材は「全社協・全国ボランティア・市民活動振興センター」のホームページからダウンロードできます。

<https://www.zcwvc.net/anatanomachideyasashisa/hirogeru/>



福祉教育の素材としてお使いの際は、HP使用に関しての留意点をご参照ください。

また、「ふくし」についての学びなどに関しては、お近くの市町村社会福祉協議会へご相談ください。

長野県市町村社会福祉協議会一覧 <http://www.nsyakyo.or.jp/soumu/link.php>



## みんなで広げよう シトラスリボンプロジェクト

誰もが新型コロナウイルス感染症に感染するリスクがあるなか、たとえ感染しても地域のなかで笑顔の暮らしを取り戻せることの大切さを伝え、感染された方や医療従事者が、それぞれの暮らしの場所で「ただいま」「おかえり」と受け入れられる雰囲気をつくり、思いやりがあり暮らしやすい社会を目指す、愛媛県の有志グループ「ちよびっと 19+」が進めるプロジェクトです。リボンのそれぞれの輪は、「地域」「家庭」「職場(または学校)」を表現しています。

### シトラスリボンをつくろう

シトラスカラー(柑橘をイメージした色)のリボンや紐で「3つの輪」を作れば、「シトラスリボン」の完成です。シトラスリボンを身につけるのはもちろん、職場等の出入口や窓口、郵便ポストなど色々な方の目に触れる場所に掲示することで、シトラスリボンの輪を広げましょう。

シトラスリボンプロジェクト公式ホームページ <https://citrus-ribbon.com/>



## SDGs

持続可能な開発目標 私たちができること



本紙で引用したSDGsのハンドブックは下記のホームページからダウンロードできます。

●マルフレート・デ・ヘル作「地球と17のゴール」日本語版 能登SDGsラボ <https://noto-sdgs.jp/>

●ハンドブック「私たちが目指す世界 子どものための「持続可能な開発目標(SDGs)」」日本語版 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン <https://www.savechildren.or.jp/lp/sdgs/>

参考：日本赤十字社「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！~負のスパイラルを断ち切るために~」  
全国社会福祉協議会「あなたのまちでやさしさをひろげるために~思いやり・つながり・支えあう~（福祉教育教材）」  
協力：川上村立川上第二小学校、駒ヶ根市立中沢小学校、長野市立長沼小学校、飯田市立緑が丘中学校、岡谷市立岡谷細部中学校、信州大学教育学部附属長野中学校

令和2年11月発行 発行：社会福祉法人 長野県社会福祉協議会 まちづくりボランティアセンター  
〒380-0928 長野市若里7-1-7 TEL.026-226-1882 FAX.026-228-0130  
E-mail [vcenter@nsyakyo.or.jp](mailto:vcenter@nsyakyo.or.jp) URL <http://www.nsyakyo.or.jp/>



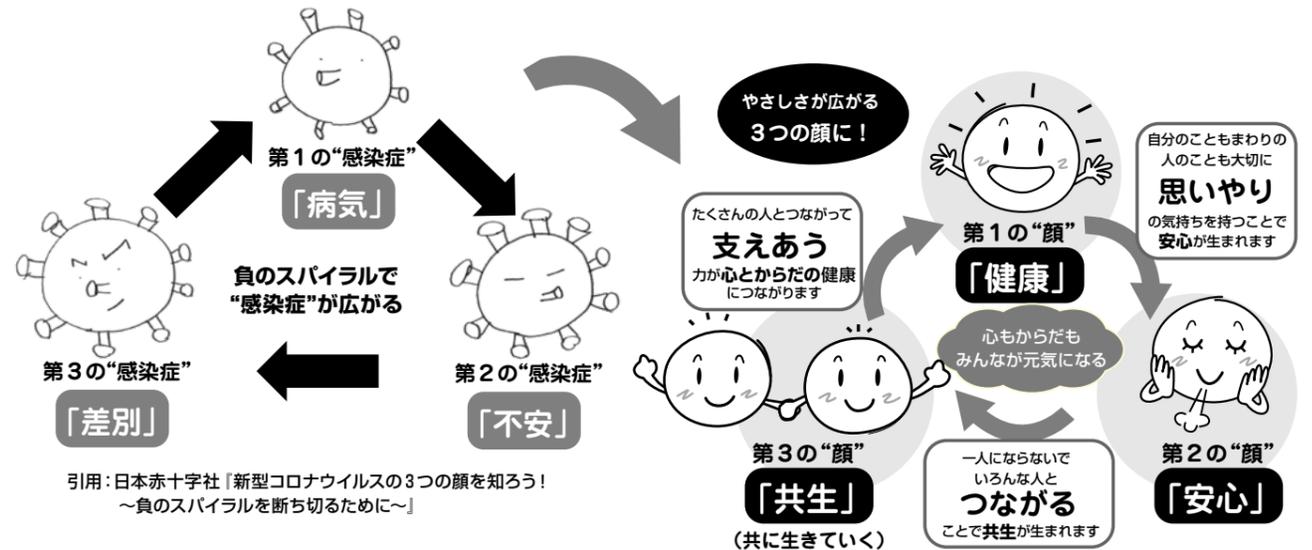
## やさしさを広げる3つの輪

\*本紙の特集事例をよりくわしく解説！あわせてご活用ください。

先生方へ  
やまびこだより  
No.156・157  
今号の特集から

### 3つの“感染症”を、やさしさが広がる3つの“顔”へ

新型コロナウイルスから考えてみよう



引用：日本赤十字社「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！~負のスパイラルを断ち切るために~」

参考：全国社会福祉協議会「あなたのまちでやさしさをひろげるために~思いやり・つながり・支えあう~新型コロナウイルスから考えてみよう」より

## 特集の概要

### 3つの感染症“負のスパイラル”を断ち切るために

新型コロナウイルス感染症は、世界中で感染の拡大が続いている状況です。このような社会情勢の中においても学びを止めないよう、学校生活では新型コロナウイルス感染症対策の取り組みをしながら様々な工夫を行っております。

感染を広げないため、マスクの着用や手洗いなど感染症対策をしっかり行うようになりました。学校行事などは、規模を小さくしたり、内容の変更や感染対策の工夫をしながら授業や学校行事を行っています。反面、初めての今回の経験は、いつ起こるかわからない不安も持ち合わせています。

日本赤十字社が作成したガイド「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう」では、この感染症は、「病気」「不安」「差別」という“3つの感染症”の顔を持っており、これらが“負のスパイラル”となってつながり、さら

なる感染の拡大につながっていくといえます。

### やさしさが広がる3つの“顔”へ

日本赤十字社のガイドは「病気」「不安」「差別」という関係を構造的に認識し、その関連における“負のスパイラル”を断ち切るというメッセージは、とても重要な視点です。

そのことを基本にした上で、全国社会福祉協議会(全社協)では、福祉教育の観点から、「病気」「不安」「差別」というマイナスの“3つの顔”を、「健康」「安心」「共生」というプラスの新しい“3つの顔”に変え、“負のスパイラル”を“やさしさの循環”へ変換していく視点が描かれています。

そのためには「思いやる力」「つながる力」「支えあう力」を育むことが大切であり、これら3つの力によって、新しい顔が創り出され、それが“やさしさの循環”としてひろがる地域社会を意図しています。

“やさしさの循環”は、コロナ禍で、「不安」を軽減し、「嫌悪、偏見、差別」を生ま

ないことにつながり、お互いに支えあうことで、みんなの心とからだの健康を創り出します。

※健康とは、WHO憲章「健康とはただ疾病や傷害がないだけでなく、肉体的、精神的ならびに社会的に完全に快適な状態であること」

### 今、自分たちができることを被災した経験と想いを活かして

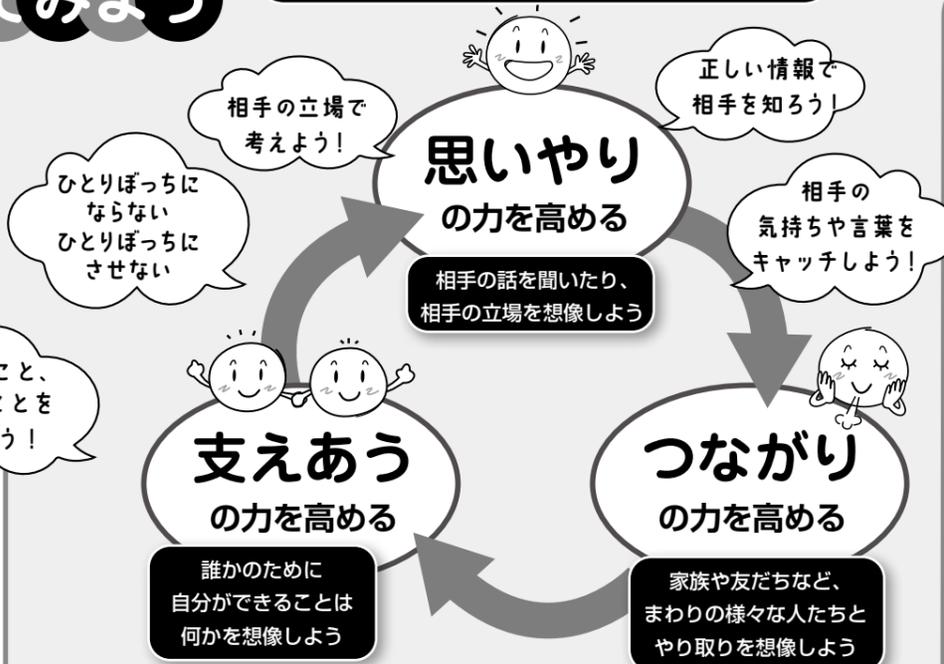
令和元年東日本台風で被災した長野市の長沼小学校と豊野中学校の子どもたちは、「災害や大変な経験をした私たちがからこそ、伝えられるメッセージがある」と各地で災害にあった他校との交流を深め、互いに励ましあっています。

コロナ禍の不安で困難な状況下にある学校生活の中だからこそ、「自分たちができること」から始めた取り組みは、「思いやる」「つながる」「支えあう」3つの力を発揮し、工夫を重ねた取り組みは、やさしさの循環を生み出しています。

# 学校生活の工夫や取り組みを考えてみよう

## 思いやり・つながり・支え合いの輪

3つの“感染症”の“負のスパイラル”を断ち切るために、学校生活の工夫や取り組みを考える機会にしていきましょう。新型コロナウイルス感染症を予防しながらの、学校行事や授業には様々なアイデアや工夫をしています。取り組みのヒントとしては、3つのポイントがあります。  
知ること・思いやること・つながることです。



### 長野市立豊野中学校の取り組み

#### 7月の熊本豪雨災害の復興を願うメッセージづくり

豊野中学校は、昨年の台風19号災害の被害をうけました。学校の校舎は仮設校舎のプレハブを使い、授業やクラブ活動も前のようにできない経験をしていました。「災害や大変な経験をした私たちだからこそ、伝えられるメッセージがある」と、生徒会のあけぼの委員会が中心となって、全校でメッセージづくりに取り組みました。

相手を想像し、知ること・学ぶこと

**相**手を知る・災害について学ぶことを最初に行いました。熊本の災害の状況を調べ、皆にわかりやすいように壁新聞にまとめ上げました。わかりやすく伝えること、生徒会の思いをまとめ、全クラスに呼びかけを行いました。

わからないと不安や何をしていたかわからなくなり、相手のことを知る、学ぶことがまず第一歩。どのような状況なのか、何が 필요한のか、相手の気持ちを考えることにつながります。

伝えること・つながること **支えあう**

**つ**ながりは、実際顔を会わせ話をすることのほかに、電話やメール、手紙などメッセージを交換していくこともあります。今は、ZOOMなどオンラインで顔をみながら、いろいろな場所の仲間とつながることができます。

相手を考えて、自分のできることを考えメッセージと作成し、届ける取り組みを学校の仲間と一緒に取り組んできました。メッセージにもあるように、仲間とのつながりは、前向きになる力や一緒に助け合える力になります。できれば互いにやり取りのある双方向のつながりを作っていくことがお互いの理解と、仲間として一緒に活動へ参加した地、助け合っていくことにつながります。



思いやる



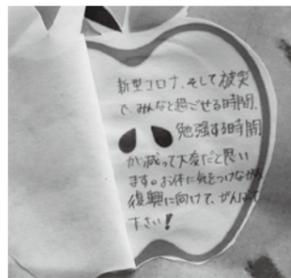
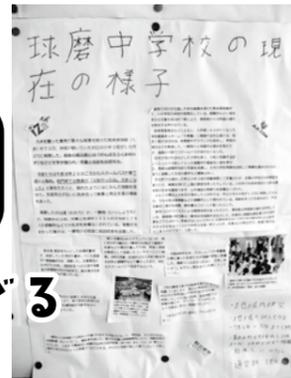
そんな豊中生から、豊野で暮らしている私たちから、喜ぶ言葉があるはず

自分のできること・気持ちを表すこと

**自**分たちの経験や気持ちなども振り返り、自分事として考えてメッセージを書きました。メッセージは思いをこめて一人ひとり丁寧に書いていきました。



つながる



生徒のメッセージより

- まだ完全に元の生活に戻れていない方もいると思います。ですが、皆で協力すればきっと戻れます。メッセージで書くことしかできませんが、頑張ってください。
- 私は去年家と学校の両方が被災しました。今はコロナでボランティアもあまり来れないと思いますが、前向きに頑張ればよいことが絶対にあります。応援しています。
- 同じような思いをしたけど、今は元気に過ごしています。絶対に一人ではないので、頑張ってください。

### 長野市立長沼小学校の取り組み

#### 遠く離れた学校の仲間とオンラインで交流

#### 新潟県長岡市立 中之島中央小学校 と交流

長沼小学校は新潟県長岡市立中之島中央小学校の児童と交流があります。長沼小学校が令和元年東日本台風で洪水の被害を受けたことを応援しようと、中之島中央小学校の児童が育てたお米を売ったお金と募金をよびかけて集まったお金を送ってくれました。



被災して気持ちが沈みましたが、みなさんの励ましのおかげで元気が戻ってきました。

知ること・思いやること

**新**潟県長岡市は、16年前に大きな災害にあっている町です。自分の町の歴史や災害のときを知ると、たくさんの人たちが助け合っていたことがありました。相手のことを考え、思いやる気持ちが行動になり、お互いの学校の交流につながりました。

思いやること・つながること

7月には、長野市と長岡市と離れたところにいる2つの学校がインターネット ZOOM でつながって交流することになりました。「寄付のおはなしと中之島中央小学校の紹介」を受けた長沼小学校6年生からは、「お礼と児童会の紹介と近況」を発表しました。

新しいつながり方法を取り入れたことで、遠く離れた学校の仲間とお互いの気持ちや様子を知ることができました。気持ちを伝えあうことやありがとうの気持ちを交換することで、お互いの気持ちが元気にになりました。

支えあう

ウェブ会議システム「Zoom」で交流

#### 栄村立 栄小学校 と交流

栄小学校では、みんなが好きなカレーをおいしく作るためのレシピを探していたところ、りんごが浮かび上がりました。長沼小学校3年生は、農家の方に教わりながらりんごを育てています。栄小学校はりんごをたくさん作っている長沼小学校のことを知り、交流が始まりました。

知ること・つながること

**離**れたところにいる新しい仲間とつながることができたZoom会議に「楽しかった」「またやりたい」という声がたくさん聞かれました。質問タイムは、「バスケットボールをやっている人はいますか」「一発ギャグができる人はいますか」楽しい時間を一緒にすごしました。

自分たちの知っていることを相手につたえるために、考えをまとめたり、相手がどんなことを知りたいのかを聞くことも大切です。

つながる



ウェブ会議システム「Zoom」で交流

手入れから収穫まで農家さんに教わりながら育てています。

